

答えは1つではありません。ポイントを押さえたら、後は、あなたなりにくふうをしてみてください。このマニュアルがボロボロになるころには、あなた自身のコミュニケーションスキルが身について、子どもとの心の距離もグンと狭まっていることでしょう。

## 「親と子のコミュニケーションスキル向上検討会」

研究責任者 北村 邦夫（日本家族計画協会クリニック所長）

委員名	所属・職名など
(委員長) 武川 行男	子どもの性教育研究ネットワーク代表
大葉ナナコ	バースセンス研究所代表
久保まゆみ	親業訓練協会インストラクター
秋山（小林） 久美子	お茶の水女子大学大学院、人間文化研究科社会心理学研究室
杉村由香理	（社）日本家族計画協会クリニック事務長
長坂 典子	元社会福祉法人恩賜財団母子愛育会愛育推進部長
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部教授
村瀬 敦子	桐朋学園大学短期大学部非常勤講師

（敬称略）

# 親子の関係性を高める携帯電話コミュニケーション

## —通話・メール機能による望ましい利用法の提案—

研究協力者 秋山久美子 日本学術振興会特別研究員

### 研究要旨

近年、携帯電話は若者をはじめ、シニアなど幅広い世代に急速に普及しており、多くの者にとって身近なコミュニケーションツールと認識されている。先行研究によれば、携帯電話は、若者の間だけでなく、親子や先生と生徒など、多様な場面で用いられていることが報告されてい

る。本論文では、このように普及した携帯電話をどのように用いることで、親子の関係を維持・向上させることができるかについて、携帯電話の利用状況、メッセージの特性、子どもの発達段階の3点から考察した。

### 1. 親子間での携帯電話利用に関する研究

現在、親子間で携帯電話が利用されていることを報告する研究は、近年になって少なからず見られるようになってきた。携帯電話に関する研究は、そのユーザーの特質から、大学生など若者を対象としたものが多くみられる。したがって、親子間での携帯電話利用に関する報告の

多くは、子どもから見た親とのやりとりについて触れているものが主となる。それら親子間のやりとりに関する報告を、大きく「電話の相手」「メールの相手」「利用の影響」の3つに分類し、それぞれについて述べる。

#### 1) 電話の相手

携帯電話には、通話とメール双方の機能が含まれるが、それぞれの機能を用いて家族とのやりとりが行われていることを報告するものがみられている。まず電話に関しては、足立ほか（2003）の大学生を対象に行った調査がある。足立らは、携帯通話およびメールの相手として、「同性の友人」「異性の友人」「恋人」「親」のなかから、多い相手を3つまで順に選ばせている。その結果、最も多い相手に関しては、通話の場合、同性の友人（51%）、恋人（31%）が圧倒的に多くみられ、わずかであるが親を挙げた人も5%ほどいることが示された。しかし、携帯メールについては、親を選ぶ人はほとんどみられなかった。

また、洞澤（2003）は、大学生を対象に、携

帯電話の利用相手についてたずね、そのうち親を挙げた人について、さらにどのような方法親と通信するかについて、携帯通話、携帯メール、および両方のいずれかから選択させている。その結果、携帯通話のみを挙げた人が69人、メールのみが6人、両方とした人が32人みられたことを報告している。洞澤は、このように通話が好まれる原因として、学生に自由記述させた結果から、1) 親との通信内容が「今日は晩御飯はいらない」など、単純な連絡や問い合わせか頼みごとなどであるため、電話代を気にしなくてよいこと、メールではかえって手間がかかることと、2) 親はメールができないため、自分も必然的に通話のみになるといった、通信環境の不備を挙げている。

## 2) メールの相手

メールでは、主に女子の利用について報告するものが多く認められた。例えば、三宅(2002)は、地方の女子短大生を対象に、携帯メールをやりとりする相手をたずねている。その結果、「あまり会えない人(34.3%)」「よく会う人(22.0%)」「兄弟姉妹(13.1%)」に次いで、「親(12.2%)」が挙げられている。また、凍田・渡部(2000)は、地方の女子短大生を対象に、文字通信のできるPHSを、利用料を一部負担する形で2ヶ月間貸し出して、利用状況を検討している。利用状況は、音声とメールの割合が3:7で、通信の相手は、友人(75%)に続き、親を挙げた人が12%みられたことが示されている。そのほか、直接通信相手をたずねたわけではないが、携帯メールを通じてやりとりする相手が親である可能性を示すものとして、津田(2002)の調査がある。津田は、地方の高校生を対象に調査を行い、携帯メールをどのような理由で送るかについてたずねている。理由は予め、「連絡

したいとき」「友人とやり取りしたいとき」「家族とやりとりしたい時」などいくつかの項目をあげておき、複数回答ではまるものを選ばせた。その結果、もっとも多く選ばれたのは、「友人とやり取りしたいとき」「連絡したいとき」であったが、「家族とやりとりしたい時」を挙げた人も総数で11%みられており、性別の内訳は男子が3%、女子が8%であった。

このように、ほとんどのデータは、携帯を通じた親子のコミュニケーションが、多くはないにしても、ある程度みられる可能性があることを示している。親子間での携帯電話を用いたコミュニケーションに関して、実際利用量についてのデータは見られていないものの、ここ数年で、シニア層の利用者が増加したこと、また上記の報告当時よりもメール対応の機器が多く出たことなどにより、現在ではより多くのコミュニケーションが行われていることが予想される。

## 3) 利用の影響

携帯電話を通じた親子間のコミュニケーションは、少なからず行われていたが、そのコミュニケーションは実際、利用者にどのような影響をもたらすのだろうか。これについては、岡田ほか(2000)や松田(2001)が、本人の意識を直接尋ねることにより検討している。

岡田ほか(2000)は、大学生を対象に、移動電話を持つことによる意識や行動の変化について、いくつか項目を挙げてたずねている。項目として代表的なものには、「人との連絡やコミュニケーションの回数が増えた」や「行動面での自由が増えた」などがあり、親子関係に関すると思われる項目には、「持つことで家族が安心するようになった」「家に連絡を入れたり、家族とコミュニケーションをとることが増えた」「自分の人間関係について家族が知らないことが増えた」がある。これらの項目に対して、「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう

思わない」の4件法でたずねているが、「そう思う」「まあそう思う」と回答した人をあわせると、順に「持つことで家族が安心するようになった」に関しては、男子が37.5%、女子が55.8%、「家に連絡を入れたり、家族とコミュニケーションをとることが増えた」は男子が28.6%、女子が40.7%、「自分の人間関係について家族が知らないことが増えた」は男子が46.8%、女子が43.9%となっていた。このように、携帯電話の影響は、「持つことで家族が安心するようになった」という肯定的な側面も見られる半面、「自分の人間関係について家族が知らないことが増えた」と、親子の関係を希薄化する影響も少なからず感じられていることが示されている。これらの項目は、親子ではなく、「家族」を対象としている点で、多少のずれがあるものの、携帯電話が親子関係にもたらす影響を示唆する貴重な資料を提供するものと思われる。

また、松田（2001）は、岡田ほか（1999）の調査を2年後に同様の内容で実施し、比較を行っている。その結果、先の親子関係に関する項目については、ほぼ同様に肯定的な意見が多く見られており、「持つことで家族が安心するようになった」については、「そう思う」「まあそう

## 2. 携帯電話の効果的な利用

以上、携帯電話の利用について、その実際と影響に関するデータを示したが、それらは概ね、携帯電話で実際にやりとりが行われていることを示しているものであり、親子間で話される内容についてのよしあしなどについて触れるものではなかった。それはおそらく、携帯電話での親子のやりとりが全体的にみて少ないこと、またその内容も、短い連絡など親子関係に影響を与えられと思われるものではなかったからかもしれない。あるいは、携帯電話を通じてお互いにやりとりできる親子は、そのこと自体がある程度関係性の良さを示していると考えられるため、携帯電話の利用が大きなトラブルや関係の悪化につながることは考えにくいからかもしれない。しかし、先のデータにもみられたように、今や携帯電話やさまざまなメディアの普及によって、人とのやりとりが直接的なものになり、電話を取り次ぐなどの間接的な行為から、親が子の交友関係について知るなどといったことが行われにくくなった。また、同様に、以前は家族をつなぐとされたテレビも、一家に一台から今や一人一台となったことで、かつては自然にもたらされた家族の団欒も、今では意識的に作り出さなければならない状況となっている。このように、家族や親子での、家での活動が少なくなる傾向にある現在では、対面のコミュニケーションはもちろん、携帯電話におけるコミュニケーションも、子どもとの関係性を保つためには疎かにはできないものと考えられる。むしろ、携帯電話をうまく活用することで、対面のコミュニケーションを増加させたり、関係性を良好にする努力が、今後は求められてくるのでは

思う」と回答した人は男子が39.7%、女子66.4%であり、「家に連絡を入れたり、家族とコミュニケーションをとることが増えた」については男子35.6%、女子48.2%と、前回に比べて少々の増加が認められた。

ないかと考えられる。

そこで、次では、携帯電話をどのように用いることが親子関係を良好にするかについて、これまでの研究をもとにいくつかのポイントから考えてみたい。その考慮すべきポイントは、「携帯電話を利用する状況」「携帯電話のメッセージの特性」「子どもの発達段階」の3点あると考えられる。

1つ目の、「携帯電話を利用する状況」を考慮するという点については、状況に応じたメディア利用を行うということである。先行研究では、我々が他者とコミュニケーションする場合、状況に応じて適切なメディアを選択していることが明らかにされている。携帯電話についても、どのような状況で用いられているのかについて、正しく把握し、それを考慮して相手に発信する必要があるだろう。これに関する研究には、例えば松田（2001）の研究がある。松田は、「緊急の連絡を取るとき」「緊急ではないが、用事のあるとき」などの各状況において、「自宅へ電話」「携帯に電話」「携帯メール」「手紙」「直接会う」のメディア（方法）のうち、どれを選ぶかについて被調査者に選択させている（表1参照）。その結果、男子では、「緊急の連絡を取るとき」と「待ち合わせ予定の変更を伝えるとき」、「遊びの誘いをするとき」に携帯電話が多く、それ以外の「深夜に連絡を取りたいとき」などについては、携帯メールを用いられることが多くみられた。女子についても、概ね男子と類似しているが、「遊びの誘い」や「待ち合わせの変更」など男子が携帯通話を利用していた場合でも携帯メールを利用していることが示された。

この調査は、若者を対象にした調査であるため、友人関係によくみられる状況を中心に検討されている点で、親子関係には応用しにくいかもしれない。しかし、このような状況によるメディア選択ということが自然に行われていることを理解するだけでも、相手に誤解を招いたり、不快感を生じさせるメディア利用を回避できる可能性が高まると考えられる。

また、2つめとして、携帯電話のメッセージの特質を考慮するということが挙げられる。携帯電話には、主に、通話による音声メッセージとメールの文字メッセージの2種類がある。これらのメッセージの特性を踏まえることで、その内容はより効果的に相手に伝わる可能性があると考えられる。例えば、音声メッセージは、文字メッセージに比べ、相手の息遣いや、言葉を発するテンポ、声の抑揚などが伝わってくる。これらは、相手の状況を把握するうえで役立つため、例えば子どもが「気分が悪い」と言っただけでも、軽い頭痛程度か、重病の可能性があるのであるのかは、文字メッセージよりも正確に理解することができるだろう。このように、相手の状況をよく知りたいとき、または自分の状況を相手にわかってもらいたいときなどに、音声メッセージを利用することは、そのコミュニケーションを確かなものにするために必要であると思われる。

## まとめ

以上、携帯電話を通じて親子の関係性を高めるために、必要と思われるポイントについて述べたが、これらは、ある程度、対面で話せる程度の親子関係を想定しているため、日ごろ全く接触がない親子や、関係が悪化している親子関係においては、必ずしも有用ではない可能性が

また、文字メッセージに関しては、音声と異なり、メッセージを伝えるときに相手と対面しないという特質や、記録が残ることでメッセージを再読できる点などが挙げられる。これらの特質は、「学校で何かあったら、いつでもお母さんに相談してね」など、普段当たり前のように感じているが、あまり口に出す機会がない気持ちなどを表現するうえで有用である。しかも、記録が残ることで、そのメッセージはのちに繰り返し読むことができる。これによって、普段当たり前すぎて意識しない子どもへの配慮や愛情を、親は気軽に、しかも具体的な形で伝えることができる。

3つめとして、子どもの発達段階の考慮が挙げられる。小学校のうちは、子どもは親からの注目や、手厚く保護してもらうことを望むかもしれないが、中高生など思春期になれば、友人への依存の方が高くなることで、親からのサポートには必ずしも依存しない傾向にある。したがって、小学生などには電話やメールをたびたびしても、中学生や高校生であれば、「帰りが遅いので心配してます。」など、簡潔なメールで子どもへの気持ちを表現することなどが必要になるだろう。これによって、子どもが必要とするメッセージと、送り手側の意識の相違を防ぐことができる可能性が高まると考えられる。

ある。そうした関係を携帯電話で向上させるためには、先述したもの以上に多くの点を考慮することが必要であろう。いずれの場合においても、上記の考察が、親子関係向上の一助となれば幸いである。

## 引用文献

- 足立由美・高田茂樹・雄山真弓・松本和雄（2003）携帯電話コミュニケーションから見た大学生の対人関係 教育学科研究年報，29，7-14。  
洞澤（2003）携帯電話の通信モードの選択に見られる傾向性 ―若者たちの携帯コミュニケーション

ーションー 岐阜大学地域科学部研究報告, 13, 45-61.

三宅喜美代 (2002) ケータイメールを利用する若者の対人関係 —本学学生のアンケート調査の分析— 大垣女子短期大学研究紀要, 43, 49-59.

凍田和美・渡部律子 (2000) パーソナルコミュにケーションに関する研究 —ハンディフォン・モバイルの影響— 大分県立芸術文化短期大学研究紀要, 38, 55-70.

津田治 (2002) 稚内市における高校生のメディア利用に関する調査報告 稚内北星学園大学紀要, 2, 47-62.

岡田朋之・松田美佐・羽瀨一代 (2000) 携帯電話利用におけるメディア特性と対人関係—大学生を対象とした調査事例より— 情報通信学会年報, 11, 43-60.

松田美佐 (2001) 大学生の携帯電話・電子メール利用状況 2001 情報研究, 26, 167-179.

表 1. 状況別のメディア選択 (松田 (2001) の表 4 を引用)

		99年調査		01年調査	
		1位	2位	1位	2位
緊急の連絡を送るとき	男	携帯電話に直電 87.1%	自宅に直電 9.1%	携帯電話に直電 91.6%	自宅に電話 5.3%
	女	同 88.6%	同 7.8%	同 94.6%	同 2.9%
深夜に連絡を取りたいとき	男	携帯電話に直電 69.2%	携帯メール 18.8%	携帯メール 54.7%	携帯電話に直電 40.5%
	女	同 60.8%	同 33.5%	同 72.0%	同 26.9%
緊急ではないが、用事のあるとき	男	携帯電話に直電 55.5%	自宅に直電 16.3%	携帯メール 59.0%	携帯電話に直電 33.5%
	女	同 41.5%	携帯メール 26.3%	同 76.4%	同 15.9%
用事はないが、時間が空いたので誰かと連絡を取りたいとき	男	携帯電話に直電 57.8%	携帯メール 18.8%	携帯メール 66.3%	携帯電話に直電 24.2%
	女	同 41.1%	同 37.6%	同 81.0%	同 12.6%
あまり頻りに連絡を取ってなかった友達に連絡を取りたいとき	男	携帯電話に直電 25.5%	自宅に直電 24.5%	携帯メール 54.0%	携帯電話に直電 25.9%
	女	手紙 34.2%	携帯電話に直電 25.5%	同 67.6%	手紙 13.2%
待ち合わせ予定の変更を伝えるとき	男	携帯電話に直電 85.5%	携帯メール 9.7%	携帯電話に直電 55.0%	携帯メール 41.8%
	女	同 78.1%	同 20.0%	携帯メール 51.7%	携帯電話に直電 47.4%
悩み事の相談をするとき	男	直接会う 41.8%	携帯電話に直電 30.8%	直接会う 36.2%	携帯電話に直電 35.1%
	女	同 32.8%	自宅に直電 31.4%	同 35.6%	同 29.3%
遊びの誘いをするとき	男	携帯電話に直電 78.4%	自宅に直電 10.1%	携帯電話に直電 50.0%	携帯メール 45.3%
	女	同 70.8%	携帯メール 14.4%	携帯メール 72.1%	携帯電話に直電 25.3%

# 異性関係の親密化におけるパーソナルメディアの利用

研究協力者 秋山久美子 日本学術振興会特別研究員

## 研究要旨

ここ数年で、インターネットのメールや携帯電話など、“パーソナルメディア”と呼ばれるものが次々と登場してきた。なかでも携帯電話は、通話とメールの双方の機能を持つものが、若者の間で急速に普及し、日常的に多用されている。これらのメディアは、個人間のコミュニケーションを、時間や場所を問わず、また間に人を介さずに直接行うことを可能にしている。

先行研究では、こうしたメディアの利用が、新たな関係形成や既存の関係の親密化、特に異性とのそれに関連していることを示すものがいくつか見られている。例えば、Parks and Roberts (1998) は、インターネット上のチャットのユーザーを対象に調査を行い、ユーザーの多くがチャットを通じて異性の友人・親友や恋人を見つけていることを報告している。また、足立ほか(2003) は、大学生を対象として調査を行い、携帯電話や携帯メールでのやりとりが最も多い相手をたずねている。その結果、携帯電話では、男女とも、同性の友人に次いで、恋人、異性の友人がその相手として挙げられており、携帯メールについても、特に男子は異性の友人が、恋人、同性の友人と同程度に多く挙げられていたことを明らかにしている。

このように、パーソナルメディアの利用と異性関係は関連があることは示唆されているが、それが実際、異性との親密化において、どのように機能しているのかについては、未だ明確でない。例えば、パーソナルメディアの利用は、異性の友人や親友など、とくにどのような関係の維持や向上に

かかわっているのか。また、それらのメディアの利用は、対面で会う場合などに比べ、異性との親密化を促進させるのであろうか。このようなことについては、先行研究では明らかにされていない。しかし、急速に普及したこれらのメディアを、今後も我々の対人関係にとって望ましく活用していくためには、検討すべき課題であると考えられる。

そこで本研究では、異性関係の親密化におけるパーソナルメディアの機能、特に携帯電話の機能を明らかにすることを目的として、異性との間のコミュニケーションの方法や内容などについて、次の3点から検討することとした。

### 1) メディアの利用範囲

パーソナルメディアを中心に、日常的に利用されるメディア（携帯電話の通話・メール、大学/家のパソコン、家の電話）を取り上げ、その番号やアドレスを、異性や同性の関係ごとに、どの程度教えているかについて検討する。

### 2) コミュニケーションの方法別頻度

異性および同性とのコミュニケーションが、携帯電話（通話・メール）、パソコンのメール、家の電話、手紙、対面の各方法ごとにどの程度行われるかについて検討する。

### 3) コミュニケーションの方法別内容

2) で扱った6つのコミュニケーション方法を通じて、どのような内容について話しているかを、異性および同性の関係ごとに検討する。

## 方法

被調査者 首都圏の大学生 143 名

調査時期 2003 年 11 月

調査内容

### 1. 対人関係の数

知り合い、友人（同性／異性）、親友（同性／異性）について、その人数を「いない」「1人」「2～3人」「4～6人」「7～10人」「11～15人」「16人以上」の7段階で測定した。また、恋人の有無についてもたずねた。

### 2. メディアの利用範囲

携帯電話（通話）・家の電話番号と、携帯メールや、家および大学のパソコンのメールアドレスについて、それを教えている人数を、1で取り上げた6つの関係ごとに尋ねた。人数は、「1人」から「16人以上」の6段階で測定した。恋人に関しては「教えている」「教えていない」のいずれかを選択させた。

### 3. コミュニケーションの方法別頻度

携帯通話・メール、家の電話、パソコンのメール、手紙および対面で会うという6つのコミュニケーション方法について、それぞれどのくらい利用するかを、1で取り上げた6つの関係（知り合い・友人（異性／同性）・親友（異性／同性）・恋人）ごとにたずねた。利用頻度は、「全くしない」から「とてもよくする」まで5段階で測定した。

### 4. コミュニケーションの方法別内容

コミュニケーション内容を、携帯電話を通じて行われるものを中心として、「授業や

サークルの連絡など、事務的な事柄」「おはよう・おやすみなどのあいさつ」「遊びの約束・計画」「日常の出来事」「ムカつく・イヤだ・ごめん等、相手に対する否定的な感情」「ありがとう・がんばって等、相手に対する肯定的な感情」「悩みごとや相談」「性に関する事柄」の8つに分類し、それらを伝えるとき、先のコミュニケーション方法を使うか否かについてたずねた。

## 結果と考察

### 1. 対人関係数

最初に、被調査者の持つ異性関係および同性関係の数について報告する。それぞれの関係数は、表1のとおりである。全体としては、知り合いと同性友人が約7-10人、異性友人が約4-6人、同性親友が約2-3人、異性親友が約1人となっており、関係が深くなるにつれ人数も減少していることが伺えた。

また、それぞれの関係の数について、性別ごとに差がみられるか否かについて検討するためt検定を行った。その結果、同性友人のみ、女子が男子より多い傾向にあった。それ以外の関係では差はみられなかった。



表1. 同性・異性関係の数および恋人の有無

	全体	男子	女子	t検定
知り合い <sup>*1</sup>	5.5	5.2	5.6	
同性友人	5.0	4.4	5.2	*
異性友人	3.1	2.8	3.1	
同性親友	2.4	2.7	2.3	
異性親友	0.8	0.9	0.8	
恋人 <sup>*2</sup>	60 (42%)	7 (21%)	53 (49%)	

注1) 知り合いから異性親友までは、「いない」「1人」「2～3人」「4～6人」「7～10人」「11～15人」「16人以上」の7段階の回答をそれぞれ0から7までの数値に置き換え、その度数を平均した値である。恋人に関しては、「いる」と回答した者の度数を算出した。( )内は総数に対する割合を示す。

注2) \*  $p < .05$

## 2. メディアの利用範囲

携帯電話やパソコンのメール、家の電話等、通常的に利用しているメディアをどれくらいの人と用いているか、その範囲を検討するため、同性・異性の関係ごとに、それぞれのメディアの番号やアドレスを教えている人数についてたずねた。平均値を表2に示す。次いで、1で先述した対人関係の人数から、アドレスを教えている人数を引き、同性・異性の関係の種類ごとに、各メディアでやりとりしない人数を算出した。その平均値を同じく表2カッコ内に示す。これについて、まずメディアごとに見てみると、携帯通話およびメールが、家の電話やパソコンに比べて多くの人に教えられていることがわかった。また、家の電話とパソコンでは、パソコンのアドレスの方がより多くの人に教えられていた。これはおそらく、パソコンメールの「送りたい相手に直接メッセージを届ける」という性質が、家族などを介す可能性のある家の電話よりも直接的で、好まれたためと考えられる。

また、これらに関係の種類ごとに見た場

合、異性と同性は、ほぼ同程度の人にアドレスを教えているように見受けられる。実際、同性友人と異性友人、同性親友と異性親友について、括弧内に示したような差が見られるかについて検討するために、対応のあるt検定を行ったところ、パソコンメールは有意差がみられたものの ( $ps < .01$ )、それ以外のメディアにおいては、差がみられないことが示された ( $ps > .06$ )。これは、異性との関係において、メディアのやりとりが、同性と同程度の範囲で行われる可能性があることを示す。

さらに、メディアと関係の質の両者を踏まえてみると、携帯電話が、他のメディアに比べて比較的多くの関係を通じて利用されていることが伺える。携帯電話は、友人以下の深い関係では、同性異性にかかわらず、ほぼすべての人に教えられており、それ以外のメディアでは、浅い関係よりも深い関係においてより多く教えられているように見受けられた。実際、異性友人と異性親友、同性友人と異性親友との間で括弧内の値について対応のあるt検定を行った結

果、携帯通話とメールについては差がみられなかったが ( $ps > .23$ )、家の電話とパソコンについては、友人よりも親友に多く教えていることが示された ( $ps < .01$ )。これらから、携帯電話の通話・メールはいずれも、ある程度親しい者であれば、同性・異性に

かかわらず通常利用されうるメディアとなること、また一方で、家の電話とパソコンに関しては、親しくなるにつれ、段階を踏んで利用されうるメディアであることが示唆された。

表2. 番号・アドレスを教える人数の平均値

	知り合い	同性友人	異性友人	同性親友	異性親友
携帯電話	4.4 (1.0)	5.0 (-0.0)	2.4 (0.1)	3.0 (-0.0)	0.9 (-0.1)
携帯メール	4.6 (0.9)	5.1 (-0.1)	2.5 (0.0)	3.1 (-0.1)	0.9 (-0.1)
家の電話	2.3 (3.2)	3.1 (1.9)	2.1 (1.8)	1.2 (0.3)	0.5 (0.3)
パソコン	1.0 (4.5)	1.3 (3.6)	0.9 (2.6)	0.5 (0.6)	0.2 (1.5)

注) カッコ内は、表1の対人関係数からアドレスを教える人数を各個人で引いた値の平均である。これは、各関係数のうち、アドレスを教えない人数を示す。この値が0に近いほど、番号やアドレスを広い範囲に教えていることを示す。

### 3. メディアの利用頻度

2で扱った4つのメディアに、「手紙」と「直接会う」を加えた6つのコミュニケーションの方法について、何をどれくらい利用するかを、知り合いや友人など関係の種類ごとに尋ねた。利用頻度の平均値を表4に示す。これらについて、方法別に見ていくと、全体として多く用いられている方法は、「携帯通話」「携帯メール」と、「直接会う」であった。特に「携帯メール」は、対面と同程度か、それ以上の頻度で用いられており、多くの関係で重要なツールとなっていることが伺える。

次に、関係の種類ごとに利用頻度を見た場合では、知り合いから恋人まで、関係が深くなるほど、コミュニケーションが徐々に増加する傾向にあるように見受けられた。実際に、そのような傾向があるのか否かを検討するために、異性友人と異性親友、同

性友人と同性親友のそれぞれの間で、利用頻度について対応のあるt検定を行った。その結果、異性については、すべてのメディアにおいて、利用頻度の差はみられなかった ( $ps < .02$ )。同性については、パソコンメールと手紙以外のメディアにおいて、友人より親友の利用頻度が高いことが示された ( $ps < .01$ )。さらに、異性の親友と恋人の利用頻度についても差の検定を行ったところ、すべてのメディアにおいて、恋人が親友よりも利用頻度が高いことが示された ( $ps < .02$ )。以上から、関係の深さによるメディア利用の差異は同性・異性の双方においてみられたが、特に異性関係においては、友人から親友への段階において見られる差ではなく、友人から恋人関係への発展において多く見られるものであったといえる。

表4. コミュニケーションの方法別頻度

	知り合い	同性友人	異性友人	同性親友	異性親友	恋人
携帯通話	2.4	3.0	2.3	3.2	2.7	4.1
携帯メール	3.1	4.0	3.1	4.2	3.4	4.6
家の電話	1.5	1.7	1.2	2.1	1.6	2.1
パソコン	1.1	1.1	1.0	1.2	1.0	1.1
手紙	1.3	1.5	1.1	1.6	1.2	1.8
直接会う	2.5	3.5	2.4	3.8	2.6	4.2

### 関係数との関連

上記に示したコミュニケーションの頻度が、関係数の多さと関連があるか否かを検討するために、各関係の数とメディアの利用頻度との相関を算出した(表5)。その結果、友人に関しては、同性・異性ともに、「携帯通話」「携帯メール」および「直接会う」に有意な正の相関が確認され、関係が多い人ほど、それらのコミュニケーションを多く行っていることが示された。また、親友に関しては、同性のみ「携帯通話」と「直接会う」との関連が見られているが、異性については有意な相関は認められなかった。これらの結果から、「携帯通話」「携帯メール」は、「直接会う」ことと同様に、多くの異性・同性の友人、同性の親友との

コミュニケーションを支えているツールであることが示唆された。異性の親友に関しては、そのような関連は見られず、コミュニケーションの多さが必ずしも多くの関係の維持と関係するわけではないにつながるわけではないということが示された。これは、異性の親友が、他の関係と異なって、必ずしもコミュニケーションの量を必要とする関係ではないことを示唆しているのかもしれない。また、異性の親友は、その関係を持っている人の数自体が多くはなかったことから、そもそも相関が出にくい可能性もある。今後はより多くのサンプルを対象にして、再度検討することが望まれる。

表5. コミュニケーションの方法別頻度と関係数の相関

	同性友人	異性友人	同性親友	異性親友
携帯通話	.23**	.34**	.28*	.21
携帯メール	.21*	.39**	.11	.21
家の電話	.17	.02	-.07	.24
パソコン	-.01	-.06	-.07	-.01
手紙	.10	-.02	.05	.18
直接会う	.21*	.25*	.28*	.15

#### 4. コミュニケーションの方法別内容

最後に、異性との間で行われているコミュニケーションが、どのような方法・内容で行われているかを明らかにするため、コミュニケーションの方法別の内容について検討した。コミュニケーションの方法は、先にあげたように、「携帯通話」「携帯メール」などの6種類であり、内容については「事務的な連絡」「おはようなどの挨拶」「遊びの約束・計画」「日常の出来事」「否定的感情」「肯定的感情」「悩み事や相談」「性に関する事柄」の8つを取り上げた。これらは、主に携帯電話で話される内容を中心として、先行研究を参考に挙げたものである。それぞれの内容を、異性の友人や親友などに伝える場合の方法を、先の6つのなかから選ばせた（複数回答可）。表6～8に、異性友人、異性親友および恋人の、コミュニケーションの方法別内容に関する集計結果を示す。

これらを、まずコミュニケーションの方法別に見た場合、「携帯メール」が3つの関係を通じて多く、メールがどの関係においてもよく利用されている様子が伺えた。また、友人および親友では、「携帯メール」に続いて「携帯通話」と「直接会う」が同程度に多く行われていたが、これは、先のコミュニケーションの頻度でみられた結果と一致するものである。恋人では、「携帯メール」に次いで「直接会う」、その次が「携帯通話」となっており、友人および親友と比べて「直接会う」の多さが目立っていた。

「家の電話」、「パソコンメール」、「手紙」に関しては概ねどの関係においても利用は少なかったが、これも、先のコミュニケーションの頻度で見られたように、それらの

メディアが、日常的なコミュニケーション手段としてはそれほど使われていないということを示すものと思われる。

次に、内容別に見た場合、「否定的感情」「悩みごとや相談」「性に関する事柄」といった対面では言いにくい内容に関しては、どの関係性でも低めの値であることが示された。また、携帯電話に特徴的な内容であるとされるコンサマトリーな利用（特に相手からの返事を必要としない「おはよう」などの挨拶）に関しては、友人・親友に関してはそれほど多くは見られず、恋人とのやりとりの内容が主であることが示された。

これら、3つの関係について、関係の深さごとの違いについて見てみると、まず友人と親友では、全体的に親友の方が、様々な内容について多く話しているように見受けられた。とくに、「おはようなどの挨拶」や「悩み事や相談」に関しては、友人より親友の方が増加していることが見受けられ、関係が深まるごとに、挨拶や相談などの内容が増加していることがわかった。これらは、コミュニケーションの方法は様々に異なれども、若者が相手との親しさに応じて、やりとりの内容を変化させていることを示したものと考えられる。また、親友と恋人との違いについて見た場合、先の友人と親友とを比較した場合より更に「挨拶」および「悩み事や相談」が増加しており、また「性に関する事柄」が直接会って話す方で大幅に増加していた。これは、性に関する事柄が、関係によっては用いる方法が変わることを意味しているのかもしれない。異性との間では、携帯メールがほぼすべて内容において多く用いられており、携帯メー

ルで話さない内容ないのかと思われるほど多用されていたが、この「性に関する事柄」のように、携帯メールでは必ずしも話されない内容があることが明らかにされた。

表6. 異性友人とのコミュニケーションの方法別内容

	言わな い	携帯電 話	携帯メ ール	家の電 話	パソコ ン	手紙	直接会 う
事務的な連絡	20	22	77	3	3	0	13
おはようなど 挨拶	47	3	27	0	1	0	32
遊びの約束・ 計画	17	28	80	2	3	0	18
日常の出来事	38	11	54	1	1	1	19
否定的感情	33	19	57	1	1	0	21
肯定的な感情	10	26	84	1	2	1	27
悩み事や相談	46	17	45	2	2	0	23
性に関する事 柄	75	5	13	1	0	0	14

表7. 異性親友とのコミュニケーションの方法別内容

	言わな い	携帯電 話	携帯メ ール	家の電 話	パソコ ン	手紙	直接会 う
事務的な連絡	8	51	82	5	3	3	15
おはようなど 挨拶	36	5	49	3	3	0	21
遊びの約束・ 計画	5	51	85	5	3	3	31
日常の出来事	18	28	69	5	5	3	41
否定的感情	23	31	74	5	3	5	23
肯定的な感情	3	46	85	5	5	5	33
悩み事や相談	8	41	69	13	5	0	44
性に関する事 柄	51	18	31	3	3	0	23

表8. 恋人とのコミュニケーションの方法別内容

	言わ ない	携帯電 話	携帯メ ール	家の電 話	パソコ ン	手紙	直接会 う
事務的な連絡	8	67	83	8	3	7	38
おはようなど 挨拶	8	50	80	7	2	0	33
遊びの約束・ 計画	2	78	92	18	2	3	68
日常の出来事	3	70	87	17	2	8	67
否定的感情	7	63	82	15	0	12	67
肯定的な感情	2	75	88	13	2	13	68
悩み事や相談	3	72	82	13	2	10	75
性に関する事 柄	22	38	38	10	2	5	67

### 総合考察

まず、これまでの結果をまとめてみたい。最初に検討したメディアの利用範囲については、関係が深くなるほど多くの人にアドレスを教えていることが示され、異性友人より異性親友の方が、アドレスを知られている範囲が広いことがわかった。また、その範囲は、同性ほど広くないものであることも示された。コミュニケーションの方法別頻度については、異性友人・親友・恋人のいずれにおいても「携帯通話」と「携帯メール」および「直接会う」が概して多くみられ、異性の友人と親友の間よりも、異性の親友と恋人の間でコミュニケーションの頻度に差が見られることがわかった。また、関係数とコミュニケーション頻度との関連では、関係数が多い人ほど、「携帯通話」と「携帯メール」および「直接会う」の3つの方法でよくコミュニケーションを行うことが示された。

コミュニケーションの内容については、

ほぼすべての内容について、携帯メールがよく用いられていた。比較的言いにくい「悩み事や相談」などの内容に関しては、いずれの方法にしろ、関係が浅い場合には抑制される傾向にあり、どのような方法を用いる場合でも、若者が相手との関係に応じたコミュニケーションを行っていることが示唆された。また、言いにくいと思われる内容のなかでも、「性に関する事柄」などのように、必ずしも携帯メールが好まれないものがあることも示された。

これらの結果から、異性関係の親密化におけるパーソナルメディアの役割について考えてみると、まず指摘できるのは、携帯電話は、知り合いなどの浅い関係でも、また親友や恋人など深い関係でも、その関係性に応じて利用しうるメディアであるということである。したがって、相手との関係が浅い段階から深くなるまでを通じて利用しうるものとなる。このような、関係の深

化を通じて使えるメディアは、これまでに  
対面以外にはみられなかったと考えられる  
ため、有用である。

しかし、携帯電話のそうした特性は、携  
帯電話を利用すれば、異性との関係が深く  
なることを意味するものではない。調査結  
果では、相手との関係の深さに応じて利用

できるということが明らかにされただけで、  
どのように利用すれば親密化を促進するか  
ということについては本調査だけでは明ら  
かでない。今後は、そうした点についてよ  
り詳しく検討する必要があるだろう。我々  
の対人関係を維持・向上させるための、望  
ましい利用方法の模索が望まれる。

#### 引用文献

足立由美・高田茂樹・雄山真弓・松本和雄 (2003) 携帯電話コミュニケーションから見た  
大学生の対人関係 教育学科研究年報(29), 7-14.

Parks, M. R. & Roberts, L. D. (1998) . Making Moosic: the development of personal  
relationships on line and a comparison to their  
off-line counterparts. Journal of Social and Personal Relationships, 15(4),  
517-537. Parks and Roberts (1998)

## 携帯電話に関する意識調査

このアンケートは、現代の若者の携帯電話の利用法や、携帯電話による様々な影響について明らかにすることを目的としたものです。

みなさんからいただいた回答は、個人個人のデータとして扱うのではなく、ひとまとめにして分析され、全体の傾向を把握するために用いられます。

回答するときは、他の人と相談せず、自分の思ったとおりの意見を記入してください。



あてはまるところに○をつけてください。

性別（男・女） 年齢 \_\_\_\_ 歳 学籍番号 \_\_\_\_\_



**1** 携帯電話の利用

2-1. あなたは、普段、携帯電話（通話）をどのくらい利用しますか。平日と休日に分けて  
お答え

ください。

※携帯電話を持っていない人は、左下の「持ってない」のカッコに○をつけてください。

持ってない [ ]		使わない	1～5分	6～10分	11～15分	16～30分	31～45分	45分～1時間	1時間以上
平日		-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
休日		-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

2-2. あなたは、普段、携帯メールをどのくらい利用しますか。携帯メールを読んだり書いたりする回数を合わせてお答えください。

※携帯電話を持っていない人、携帯電話でメールができない人は、左下のカッコに○をつけてください。

持ってない/できない [ ]		使わない	1～5回	6～10回	11～15回	16～20回	21～25回	26～30回	31回以上
平日		-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
休日		-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

**2** 対人関係

1-1. あなたには、以下の関係の人がどのくらいいますか。あてはまるところに○をつけてください。

恋人に関しては、「いない」か「いる」のカッコに○をつけてください。

	いない	1人	2～3人	4～6人	7～10人	11～15人	16人以上
知り合い	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人（同性）	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人（異性）	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友（同性）	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友（異性）	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
恋人	いない [ ]						
							いる [ ]

**3** 番号やアドレスを教える人

3-1. あなたは、自分の携帯電話の番号やメールアドレスなどを、どのくらいの人に教えていますか。例にならって、関係の種類ごとにどのくらいの人に教えているかを答えて

ください。

※それぞれの関係にあたる人がいない場合には、左側の「いない」のカッコに○をつけてください。

※携帯電話を持っていないときは、右上の□内のカッコに○をつけてください。

例

* 自宅の住所							
	いない	1人	2~3人	4~6人	7~10人	11~15人	16人以上
知り合い	[○]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人(同性)	[ ]	-----	-----	-----	○-----	-----	-----

\* 携帯電話(通話)の番号

持っていない[ ]

	いない	1人	2~3人	4~6人	7~10人	11~15人	16人以上
知り合い	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人(同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人(異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友(同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友(異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
恋人	[ ]	教えてない [ ]	教えている [ ]				

\* 携帯メールのアドレス

携帯電話を持っていない/メールはできない[ ]

	いない	1人	2~3人	4~6人	7~10人	11~15人	16人以上
知り合い	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人(同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人(異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友(同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友(異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
恋人	[ ]	教えてない [ ]	教えている [ ]				

\* 家の電話番号

家に電話はない [ ]

	いない	1人	2~3人	4~6人	7~10人	11~15人	16人以上
知り合い	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人(同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人(異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友(同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友(異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
恋人	[ ]	教えてない [ ]	教えている [ ]				

\* 家や大学のパソコンのメールアドレス

家や大学でメールはできない [ ]

	いない	1人	2~3人	4~6人	7~10人	11~15人	16人以上
知り合い	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人 (同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
友人 (異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友 (同性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
親友 (異性)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----	-----
恋人	[ ]	教えてない [ ]	教えている [ ]				

#### 4 メディア利用

次に、あなたの「知り合い」、「同性の友人」、「異性の友人」、「同性の親友」、「異性の親友」、「恋人」のそれぞれと、話したり連絡を取る方法についてお聞きします。

- 4-1. あなたが普段、知り合いの人と話したり連絡をとるとき、以下のもの(こと)をどれくらい使いますか(どれくらいしますか)。あてはまるところに○をつけてください。  
 ※知り合いがいない場合は左下の「知り合いはいない」のカッコに○をつけてください。  
 ※該当する機器を持っていない場合には、「持っていない」のカッコに○をつけてください。

知り合いはいない [ ]

	持っていない	全くしない	ほとんどしない	たまにする	よくする	とてもよくする
携帯電話 (通話)	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
携帯メール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
家の電話	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
大学・家のパソコンのメール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
手紙		-----	-----	-----	-----	-----
直接会う		-----	-----	-----	-----	-----

- 4-2. あなたは普段、同性の友人と話したり連絡をとるとき、以下のもの(こと)をどれくらい使いますか(どれくらいしますか)。あてはまるところに○をつけてください。  
 ※同性の友人がいない場合は左下の「同性の友人はいない」のカッコに○をつけてください。  
 ※該当する機器を持っていない場合には、「持っていない」のカッコに○をつけてください。

同性の友人はいない [ ]

	持っていない	全くしない	ほとんどしない	たまにする	よくする	とてもよくする
携帯電話（通話）	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
携帯メール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
家の電話	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
大学・家のパソコンのメール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
手紙		-----	-----	-----	-----	-----
直接会う		-----	-----	-----	-----	-----

- 4-3. あなたは普段、異性の友人と話したり連絡をとるとき、以下のもの（こと）をどれくらい使いますか（どれくらいしますか）。あてはまるところに○をつけてください。  
 ※異性の友人がいない場合は左下の「異性の友人はいない」のカッコに○をつけてください。  
 ※該当する機器を持っていない場合には、「持っていない」のカッコに○をつけてください。

異性の友人はいない [ ]

	持っていない	全くしない	ほとんどしない	たまにする	よくする	とてもよくする
携帯電話（通話）	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
携帯メール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
家の電話	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
大学・家のパソコンのメール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
手紙		-----	-----	-----	-----	-----
直接会う		-----	-----	-----	-----	-----

- 4-4. あなたは普段、同性の親友と話したり連絡をとるとき、以下のもの（こと）をどれくらい使いますか（どれくらいしますか）。あてはまるところに○をつけてください。  
 ※同性の親友がいない場合は左下の「同性の親友はいない」のカッコに○をつけてください。  
 ※該当する機器を持っていない場合には、「持っていない」のカッコに○をつけてください。

同性の親友はいない [ ]

	持っていない	全くしない	ほとんどしない	たまにする	よくする	とてもよくする
携帯電話（通話）	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
携帯メール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
家の電話	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
大学・家のパソコンのメール	[ ]	-----	-----	-----	-----	-----
手紙		-----	-----	-----	-----	-----
直接会う		-----	-----	-----	-----	-----